

哲学委員会いのちと心を考える分科会（第25期・第3回）
議事要旨

- 1) 日時：2021年2月27日（土）15：00～17：00
- 2) 参加者：土井・田坂・香川・加藤・一ノ瀬・羽入・八木・石井・島菌・安藤・小島・建石・豊田・鈴木+柳原良江（オブザーバー）
- 3) 土井委員長がレジュメに則り議事を進行した。まず「ゲノム編集に関するアンケートについて」田坂副委員長が説明をし、さらにオブザーバーの柳原氏がレジュメ「受精卵（ヒト胚）への「ゲノム編集」アンケート現状報告」に即してスケジュールなどを説明した後に質疑を行い、了承された。今後このアンケートについては安藤委員・田坂副委員長・建石委員・豊田委員で対応することとなった。
- 4) 続いて「提言英訳の進捗」について田坂副委員長から説明があり、了承された。
- 5) さらに「今期の審議テーマ」の執行部案に関して土井委員長から以下のような説明があり、質疑応答を経て了承された。
 - a) 第一に、コロナ禍、パンデミックにおけるいのちの問題、具体的にはトリアージについて。9月までとし、今期の一年目をこれに充てる。＊3月に安藤委員（ただし、ご都合により、4月3日または4日、あるいは12日などに変更の可能性があるので、改めて調整予定）、4月に堂園先生の招致、5月に加藤委員、そして7月にシンポジウム、7月のシンポジウムは3月の分科会で詳細を決める。
 - b) 第二に、トリアージから発展して、尊厳死、安楽死の問題。審議を重ねて報告書（ある程度の方向性が示されれば、多様な意見のままでも可と思います）、できれば提言。またその間に学協会との連携なども進める。この場合には論点の整理を重視する。

c) 第三に、ゲノム編集や核移植など前期の問題の継続審議。必要に応じて対応をはかる。これとの関係で、3月20日の土井委員長登壇の「ゲノム編集の光と陰」（日本クリスチャンアカデミー主催）と、5月14日の田坂副委員長・安藤委員・石井委員・島菌委員登壇の日本哲学会公募WS企画が関連で紹介された。

またさらに、来年度以降の科研費申請についてもその必要に関して議論された。

- 6) 芦名定道（京都大学教授）の特任連携会員推薦について土井委員長から説明があり、島菌委員と羽入委員から質問が出され、議論の後、推薦することが了承された。
- 7) 一ノ瀬委員の特別報告「新型コロナ感染症と感染症倫理」がおこなわれ、報告後に安藤委員・建石委員・土井委員・石井委員（チャット参加）との間で質疑応答が行われた。また、石井委員からはチャットでオーストラリアの核移植の合法化の話題も提供された。
- 8) 第二回分科会の議事録を確認し承認した。

以上